

東海道五十三次の内

四日市宿～亀山宿まで歩く

YUME 追い人

四日市のコンビナートを「ホテルルートイン南四日市」8階窓から見る。

大きなコンビナートで夜景は照明に照らされて美しいが、昼間の明るい時に見るコンビナートは、大きな配管パイプ、鉄骨の建屋、コンルーフタンク、ベッセルタンク等鉄製品でいっぱい「ぐちゃぐちゃ」になっている。その中で蒸気が所々で上がっている。日本の幾つかの工業団地で、ある時期日本の産業を引っ張ってきたコンビナート。江戸時代には伊勢湾に面した宿場で海上交通の要地となった。四日市湊の近くでは「よし」や「あし」が生えていた処で、風が強く、湊を描いた「廣重の浮世絵」が思い出される。その様な所が時代の波に乗り、この地が発展したのだと色々思う。

今日で四日市宿を歩くのは終わり、次宿の石薬師宿へ行く。

昨日（2018年6月30日）日永一里塚や日永の追分を見てホテルに帰ったが、今日は午前中のみ歩き、午後は長野に帰る予定。

杖衝坂に来てボランティアガイドの方に説明していただく。



杖衝坂でボランティアガイドさんに説明を聞く

東海道五十三次の中でも急な坂で「杖突坂」とも書く。日本武尊が東征の帰途で足が痛くてこの坂道を上るのに腰の剣を外して杖にしたという伝承がある。この坂の所で「吾が足三重の勾りなして（まがはなはなし）疲れたり」と言われ、これが三重県の県名の由来とも言われている。（中略）

ウォークリーダー（随行案内人）に石薬師宿について説明していただく。

『東海道五十三次の幕府の宿場指定は、石薬師宿は元和二年（1616年）庄野宿は寛永元年（1624年）で東海道五十三次では最後に指定されています。四日市宿と亀山宿の宿間距離が五里（約20km）を超えていて、人馬継立の負担が大きかったことによるものでした。

石薬師宿と庄野宿は小さい村が集まってできた宿場町で、東海道五十三次では人口、家屋数、旅籠、人馬等が最も少なかったのが幕末には人馬の継立の数を軽減されています。

「石薬師宿」は江戸より百一里十八町（約399km）あり、次宿の「庄野宿」まで約2.9kmになっています。この宿間は東海道五十三次で2番目に短い所です。町並南北9町42間、家数241軒（内 本陣3軒、脇本陣0軒、旅

籠15軒）人口は女性519人、男性472人で合計991人です。小さい町並みで小さい宿場です』

東海道（旧国道1号線）はここでは南に向かって走っている。

道の両側に石碑や碑文、白い板に書かれた短歌、等が何枚も飛び飛びに立ててある所に来た。立て看板を見ると（数えたら50枚立っている）ここは「東海道石薬師宿信綱かるた道」で、国学者「佐佐木信綱」の生家が近いと書いてある。（正確には佐々木では無い）

国学者って何だろうと興味を持つ。中学生の時に、短歌を詠った偉い先生と教わった。

「信綱資料館」に入り掲示物を見る。国学者「佐佐木信綱」は明治5年にこの地で生まれている。13歳の時に東京大学へ入学し（明治時代にはできたのか）26歳で短歌の結社「竹柏会」を発足させ、明治時代の国民唱歌「夏は来ぬ」を作詞、歌集「思草」を発表、「校本万葉集上下」「新訓万葉集上下」を出版、昭和12年に第1回文化勲章受章。小学校、中学校、高等学校、各種学校、大学の校歌を作詞、全国で121校の校歌を作っていて、長野県では長野市にある清泉女学院中学校高等学校の校歌もその中に含まれている。



佐佐木信綱の生家を移設した「信綱資料館」

佐佐木信綱は父親が国学者でその影響があったという。近くに佐佐木信綱の菩提寺「真宗高田派浄福寺」がある。この寺の正面に信綱の生家を移設し、昭和45年に「展示施設」を作り、昭和61年に「信綱資料館」が併設され、土蔵や「石薬師文庫閲覧所」も移転されている。



佐佐木信綱の菩提寺や石薬師文庫閲覧所を説明するボランティアガイド

本日のゴールは信綱資料館で、バスに乗る前に整理運動として手足の運動をする。バス中で昼食となる。割烹会席「好広」の弁当で数多くのおかずがあり、ご飯も美味しい弁当をいただく。

この後バスは一路長野県に向かって東名高速道路を走る。

長野県に入り南信より参加者が下車、途中で甲府方面と中信、北信とに分かれて今回の、二泊三日の「歩け歩け」は終わった。いつもながら歩いた達成感で、すがすがしい気持ちだ。家に着いたのが22時40分頃である。

2018年7月20日(金) 長野インター駐車場を5時50分出発し、南に向かって高速道路を大型バス2台で走る。東信、北信、中信、南信と回って新名神高速道路を鈴鹿で下り、伊勢の国 一宮 猿田彦本宮の「椿大神社」に着く。

この椿大神社は規模が大きく、全国二千余りの「猿田彦大神」を祀る本宮だ。(中略)

椿会館で昼食をとる。強飯とおかずとして山菜他3種類と少ない。これで午後の歩きが持つ心配。

前回ゴールした佐佐木信綱記念館近くの駐車場に着く。バスを降りてから例によって歩く前の準備運動をし、本日の名所旧跡を聞き、個人行動の危険性や歩く時の注意事項を聞く。

本日のウォークリーダー(随行案内者)は大阪「旅人企画」の、1号車横田さん(男性)2号車村上さん(男性)で、参加者1号車(東信、北信、中信の一部の方)27名。2号車(中信の一部の方、山梨、南信の方)31名で合計58名。添乗員の方はトラビスジャパン1号車松橋さん、2号車石原さんである。一路京に向かって今回も「歩け歩け」が始まる。

瑠璃光寺橋を渡り、石薬師寺に着き、ウォークリーダー(随行案内者)の説明を聞く。

『これから石薬師寺に入ります。この石薬師寺は山門に門札が掛けてありますが、山号は「高富山」で「瑠璃光院石薬師密寺」となっています。山門のもう一方の柱には「東寺真言宗」と書いてあります。西国薬師第三十三番札所で、本尊が石製の薬師如来で、弘法大師が刻み、開眼供養し、本尊として祀られています。この石薬師如来から「石薬師」の地名の由来となっています』

山門から中に入ると石製の不動明王や、御百度参りの石柱の上に可愛い石のお地藏様が立っている。又奥へ進むと石に関して面白い可愛い石の仏様、石碑、碑文等がたくさん立ててある。

この石薬師寺本殿棟瓦の上



椿大神社の大鳥居



昼食をいただいた椿会館



瑠璃光院 石薬師密寺



嵯峨天皇勅願所

に、珍しいかな、シャチが一對載っている。拜殿右側柱には菊の御紋と「嵯峨天皇勅願所」と彫ってある木札が下がっている。入り口の香炉台にも菊紋が入っている。(中略)

江戸日本橋より百二番目の「石薬師一里塚」を通り、京に向かって鈴鹿川の近くを歩き、「庄野宿」に入る。

鈴鹿市指定建造物「旧小林家住宅」が「庄野宿資料館」になっているので資料館に入る。江戸時代の建物がまだ残っており、宿場町の面影を思わせる格子が並び、資料館は綺麗な建物だ。小林家は庄野宿の「問屋」であった所を一部復元し、宿場関係の資料を展示している。今の建物は明治時代に建て替えられたものだが、江戸時代に各藩が小澤本陣に宿泊する時に、本陣の前に出して知らせる「御用達」の看板が多数ある。近くの「小澤本陣跡」は石柱が立ててあり、本陣の建物と高札場の建物は今は無い。(中略)

延喜式に載っている川俣神社に寄る。この神社内には「川俣神社のスタジオ」という「椎の木」で300年経っている大きな木があるというので寄ってみる。昭和44年三重県天然記念物に指定されている。延喜式に載っている割には拜殿は質素で本殿は小さいながら立派に造ってある。川俣神社は近隣に6社ありその内3社は東海道沿いにあるという。これから次の川俣神社が見えてくる予定。この川俣神社から少し歩いて本日のゴールになる。

名阪関ドライブインの夕食は昼の食事とは違い、品数が多いし、美味しく皆びっくり。夕食後、「ホテルルートイン亀山インター」へ行きここで2泊する予定で添乗員さんにホテルの部屋割りカード、部屋のキーをいただく。このホテルは南側高速道の道路、それと並行して南側に列車の線路、北は国道となかなか難しい場所に建っている。

今日は午後から歩いたので5kmも歩いていない。シャワーを浴びて、明日はどんな所を歩くのかワクワクしながらベッドに入る。

2018年7月21日(土)朝食は6時30分から始まる。8時30分にホテル駐車場に止まっている大型バスに集合し出発する。昨日のゴール地点川俣神社近くの駐車場に着き、



旧小林家住宅の「庄野宿資料館」



本陣の前に出して知らせる「御用達」の看板



川俣神社本殿

そこで例によって準備運動と歩く時の注意事項、本日の名所旧跡の説明を受ける。メンバーは昨日と同じメンバーである。

庄野宿より京に向かって行くと「従是東神戸領」という碑が立っている。ここまでが神戸領だと分かる様に境界が標してある所だ。少し歩くと女性だけで堤防を築いた女人堤防、又2社目の川俣神社を見て西へ向かって歩く。江戸日本橋から百三里目の「中富田一里塚」と「従是西亀山領」と書いてある境界碑が立ててある。庄野宿や薬師宿が以前に「神戸領」だった事が分かる。この街道沿いに川俣神社がもう1社ある。

鈴鹿川の支流安楽川のと泉橋を渡ると「亀山宿」に入る。「和田道標」から和田一里塚を通り、亀山ローソクの前に来る。

ウォークリーダーが、今日の参加者に次の事を聞いた。「亀山と言えば何を想像しますか」

老人組は「ローソク」と答え、中年組は「シャープアクオス亀山シリーズ」と言ったので皆で大爆笑。年代によりこうも違うのだ。亀山の下水マンホールは亀の上にロウソクが立っているもの2種類と、亀山城跡がデザインされたものがある。

ウォークリーダー（随行案内者）に亀山宿について説明していただく。

『亀山宿は江戸より百四里九町（約409.4km）あり、次宿の関宿へ一里半（約6km）です。東海道品川から数えて46番目の宿場町です。亀山宿の街並みは南北21町59間ありました。家数567軒（内 本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠21軒）人口は女性759人、男性790人計1,549人でした。亀山では、中世、戦国時代には関氏一族、天正時代には岡本氏、江戸時代初期は関氏、寛永13年には本田氏が入城し、亀山城と亀山宿を中心に地域の発達に各氏が貢献しましたが、現在の亀山城は石垣と、多門櫓が残っているだけです。

城下町であった西町に藩主石川氏の家老であった加藤



「従是東神戸領」の境界標



川俣神社の「スタジオ」



亀山ローソク前のバス停



亀山市のマンホール

家の長屋門や、土蔵が残っています。又山手にある亀山公園に「亀山市歴史博物館」があります。亀山城西の丸と外堀の説明看板が街道筋にあります。亀山城の敷地の大きさが良く



亀山城大手門跡に建ててある案内板

亀山城跡江戸門跡から西へ向かって歩く。大手門跡、高札場、外堀、京口門跡などを通る。ここまでお城があったのだ。当時はかなり大きなお城なのだと思う。

昼食はバスの中で「亀山あんぜん文化村」で作られた弁当で、美味しいおかずが入っており、満足のいく弁当であった。この旅での食事は椿会館を除いてみな満足だ。

旧館家住宅（枡屋）の中を見る。今回も入場無料だ。部屋数がいっぱいあるが天井が低く、黒い大きな梁が何本も入っている部屋。御簾の引き戸で下に「そろ盤格子」がある。その部屋の横には檜の皮で壁を葺いてある物置や、おしゃれな塀兼用の物置もある。庭も大きく、よく手入れされている。お寺でない一般人の塀の所に花頭窓が使っている。塀の屋根も綺麗、当然家の街道筋側には格子戸が並んでいる。綺麗な格子の連立は美しい。土蔵も普通の3軒分もある大きな土蔵だ。江戸時代の商人屋敷は規模が大きく全体が綺麗に見える。

光明寺を通り「史跡野村一里塚」に着く。

ウォークリーダーの説明を聞く。

『三重県亀山市野村にある一里塚で、江戸日本橋から数えて百五里になります。徳川秀忠の命によって作られたもので、今は右側の一里塚しか残っていません。当時としては珍しい椋の木が植えられ、樹齢300年とも言われています。国の史跡に指定されています』

すごく大きな幹で、枝も広げて張り、どこからでも良く見える一里塚だ。

亀山藩「大庄屋打田権四郎昌克旧宅跡」の標柱がある所を通り、太岡寺たいおうじに着く。

大きな木製の案内板が立っている。鈴鹿川の北堤防に2km続いている東海道一の長いいながい、ウォークリーダーの話では、春は桜の花が咲きほこるといふ。

「東の追分」と言われるところに来た。ここは昔「東海道」と「お伊勢参り」へ行く分岐点であり、この処が伊勢神宮へ東から行く街道の「追分」になっている、と案内板に表示されている。

もう「関宿」は近い。



太岡寺たいおうじのいわれ説明板

次回（関宿～坂之下宿）に続く